



陶史の森からのご案内

バードウォッチング (自由参加)
5月25日、6月22日(日) 午前9時～11時
※集合場所は林泉の池堰堤
ミツバチ教室 (要申込:定員10家族)
6月15日(日) 午前9時～11時
持ち物: 白色の服装、帽子
※集合場所はウッディドーム

多様な姿 ーカワトンボー

初夏の川べりで、金属光沢のある緑色をした、全長5cm程のスマートな体型の美しいトンボが見られます。「カワトンボ」です。カワトンボは「ニホンカワトンボ」と「アサヒナカワトンボ」の2種に分かれますが、区別が難しいので「カワトンボ」として区別せずに紹介します。

カワトンボの羽や胴体の色には個体差があり、オス・メス、成熟・未成熟、生息地域によって違いがあります。羽の色には無色、だいたい色、淡いだいたい色の3タイプがあり、胴体も緑色でなく白く粉

を吹いたものもいます。また、羽の上部にある斑は、未成熟のオスは白色ですが、成熟すると赤褐色になります。ちなみに中部地方では、成熟したオスの胴体は白く粉を吹き、

羽がだいたい色と無職透明の2タイプ。メスは緑色の胴体で薄いだいたい色と無色透明の2タイプがいます。カワトンボは個体ごとに姿が異なり、同じ種の中で多様な姿を持つ、興味深いトンボです。

あなたはどのタイプのカワトンボに出会えるでしょうか。見かけたら、ぜひ観察してみてください。

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



岐阜県高山市での美濃焼販売の様子
(昭和20年代か)
撮影: 杉浦栄誠氏

※写真、手記、記憶などをお持ちの方はご連絡ください。

第13回 昭和100年、戦後80年

2025年は昭和100年にあたり、さまざまな媒体で昭和の時代を振り返る記事を見かけます。昭和は、近代以降、最も長く続いた時代です(明治時代は44年間、大正時代は14年間、昭和時代は63年間、平成時代は30年間、令和は6年間)。この60余年の間で最も大きな出来事の1つが、終戦ではないでしょうか。

昭和20年に第2次世界大戦が終結し、今年には戦後80年の年でもあります。美濃焼産地である当地では、戦中、その生産が制限され、戦争の影響を等しく受けました。戦後間もなくは、日常の器を含むさま

ざまな物資が全国的に不足し、それを補うように美濃焼の生産も増え、復興の後押しをしました。左の写真は、戦後、美濃焼を全国に売り歩いた様子の一場面です。男性の後ろにある看板には「戦後初めての猛獣とサーカス」の文字が書かれ、復興のはざまに人々の日常が変化していく様子が垣間見えます。

新しい博物館では、当地の歴史を紹介する展示の中で、戦中・戦後の土岐の姿をお伝えする予定です。当時の衣食住やまちの様子、仕事、教育、出産、子育てなどの情報収集にご協力をお願いします。